

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 9 月 10 日

【評価実施概要】

事業所番号	3610123667
法人名	医療法人 道志社
事業所名	グループホーム 大神子
所在地	徳島県徳島市大神子22番地1 (電話) 088-662-1210

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 9 月 10 日

【情報提供票より】(平成 20 年 8 月 21 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤:6人、非常勤:3人、常勤換算6.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	2 階建ての	1、2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,200~31,500 円	その他の経費(月額)	光熱費6,300円、その他実費	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		-	円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 8 月 21 日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名	
要介護1	5 名	要介護2	0 名			
要介護3	3 名	要介護4	0 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84.1 歳	最低	75 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	リハビリテーション大神子病院
---------	----------------

徳島県 グループホーム大神子

1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の近くには大神子海岸や日乃峰神社があり、裏山からは鳥や虫の音が聞こえる自然豊かな環境にある。隣接する病院や介護保険事業所、地域の行事に参加するなど積極的に外部との交流を図っている。ボランティアの指導による俳句の作品を市の広報誌へ定期的に発表するなど利用者の生きがいや楽しみを支援する取り組みがなされている。また病院への受診支援の他に、協力医療機関の言語療法士の助言を受けての誤嚥防止訓練や、作業療法士に勧められての塗り絵など利用者一人ひとりに合わせたサービスが提供されている。管理者はサービスの質の向上に熱意を持ち、職員の研修参加にも積極的である。利用者は家庭的で落ち着いた環境のなかで安心して過ごされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題である「重度化や終末期に向けた方針の共有」について、利用者や家族、かかりつけ医などとの話し合いを深め、全員で方針を共有している。また同意書への確認印をもらうなど改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や職員は評価の意義や目的を理解して全員で自己評価を行うなど、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催され利用者や家族代表、有識者、地域包括支援センター職員、地域住民代表、法人代表、職員で構成されている。会議では活動報告のほか、開催ごとに感染症や自己評価、家族会など1つのテーマを議題として参加者間で話し合っている。また参加者からの質問や家族からの希望、要望などを話し合い、事業所の運営やサービスに活かしている。会議録は全職員に報告、回覧され確認印が残されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や年1回の家族アンケートを実施し、家族から意見などを出してもらいやすいよう配慮している。また家族会や家族が行事に参加した時、運営推進会議、面会時などに要望などを言ってもらえるよう働きかけている。出た意見や苦情などは記録に残して課題を検討し、サービスの改善に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くの海岸への散歩時に地域住民と挨拶を交わしたり、地域の祭りやごみ拾いなどの活動へ参加するなどの交流を図っている。また運営推進会議に地域の方に参加してもらうことで情報収集や事業所への理解を深めてもらう機会としている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の住民として安心してその人らしく暮らし続けることを支えるために「これからもずっと自分らしく暮らしていけるためのお手伝い」といった独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は朝礼で理念を唱和してケア方針などについても話し合い共有し、日々のサービスに反映するなど実践的な取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの海岸への散歩時に地域住民と挨拶を交わしたり、地域の祭りやごみ拾いなどの活動へ参加するなど交流を図っている。また運営推進会議に地域の方に参加してもらうことで情報収集や事業所への理解を深めてもらう機会としている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義や目的を理解して全員で自己評価を行うなど、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。前回外部評価の結果も全職員が把握してサービスの改善に活かされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催され利用者や家族代表、有識者、地域包括支援センター職員、地域住民代表、法人代表、職員で構成されている。会議では活動報告のほか、開催ごとに感染症や自己評価、家族会など1つのテーマを議題として参加者間で話し合っている。また参加者からの質問や家族からの希望や要望などを話し合い、事業所の運営やサービスに活かしている。会議録は全職員に報告、回覧され確認印が残されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入退居状況の報告のほか、感染症予防の相談や成年後見人制度の問い合わせを行うなど、市担当者との連携を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2か月に1回グループホーム便りを家族に送り、写真などと併せて利用者の状況や行事予定などを報告している。また面会時や電話でも随時報告を行っている。金銭出納帳は家族の来訪時に見てもらい確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や年1回の家族アンケートを実施し、家族から意見などを出してもらいやすいよう配慮している。また家族会や家族が行事に参加した時、運営推進会議、面会時などに要望などを言ってもらえるよう働きかけている。出た意見や苦情などは記録に残して課題を検討し、サービスの改善に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は少なく、利用者には馴染みの関係による支援を提供できるよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画が立てられ、管理者は職員の資質向上に熱意をもって各自の段階に応じた研修への参加を勧めている。報告書は全職員に回覧され、確認印が押されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他の事業者との交流や連携の必要性を認識し、職員の相互訪問や相互評価を積極的に行いサービスの質の向上に取り組んでいる。またグループホーム協会に加入し、講演会や事例検討会に参加するなどして交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は本人や家族などから希望や不安をよく話を聞き、理解に努めている。また事前の見学や体験入居なども利用しながら安心してホームの生活に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からは野菜作りや料理を教えてもらったり、生活の中で喜怒哀楽を共感しあうなど共に過ごし支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常の会話や表情などから利用者の希望や思いを把握するよう努めている。意思疎通が困難な方は家族などから情報を得て利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりのなかで利用者や家族の思いや要望などを聞き、全職員で意見交換を行いアイデアなどを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じた定期的な見直しと利用者の状態の変化に応じた随時の見直しが行われている。会議では利用者の最新情報を関係者間で話し合い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイの受け入れや通院介助など、家族と相談し利用者の状況に合わせた柔軟な対応が行われている。また医療連携体制があり、日常の健康管理と24時間の連絡体制により安心へと繋がっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望する病院や診療所での受診ができるよう支援している。また事業所は病院と隣接して連携が密であるため、緊急時の対応策も整えられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について利用者や家族と契約時に話し合っている。また面会時や症状が進行した場合などにはその都度話し合っている。本人や家族、かかりつけ医などの関係者間で方針を共有している。家族からは同意書に確認印をもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーを尊重し、食事などの介助時には言葉遣いに注意して穏やかで優しい対応が行われている。また個人情報を利用目的を明文化して職員間で共通認識を図り、厳重に取り扱うよう配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースや望んでいることを大切にして希望にそった支援を行っている。散歩や入浴、庭での食事などは、その時の利用者の体調や気持ちを尊重して参加を決めたり、時間を調節したりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員で料理した弁当を持って近くの公園へ行き、食事会をするなど和やかで楽しい雰囲気づくりを行っている。利用者は職員と一緒に調理の手伝いや片付けなどできる事を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	無理強いせずこまめに言葉かけを行い、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。また入浴日は利用者の希望にそって決められている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの得意なことや楽しみごとを把握し、習字や俳句、野菜作りなど本人の力量に合った気晴らしや楽しみごとを支援している。また毎月発行される市の広報誌への俳句の掲載は利用者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所近くの公園や海岸への散歩、買い物などに出かけている。暑い季節には敷地内の木陰で腰掛けたり、隣接する病院内でコーヒーマシーンを受けるなど希望にそった外出支援が行われている。またビッグひな祭りや紫陽花見学など、季節に応じた外出支援も行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない自由な生活を支援している。また利用者が出入りしたことが分かるよう玄関ドアに鈴をつけるなど安全面への配慮も行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難訓練は月1回、日中と夜間を想定して出火元を変えて実施している。緊急連絡網は事務所内に掲示されている。年に1回は消防署立会いのもと隣接の病院や介護保険施設と合同で訓練を行っている。非常時の備蓄は隣接病院で用意されている。また地域の方への協力も依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接病院の管理栄養士が作った献立表によりホーム内で利用者と一緒に調理している。また調理方法は利用者の体調や好みに応じて、キザミ食や代替食にするなどの工夫を行っている。栄養や水分の摂取量を記録し、必要量の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は森林に囲まれ、鳥や虫の声を聞きながら穏やかな時間を過ごせる環境である。玄関前には季節の花が植えられ、長椅子でゆっくり休憩できるようになっている。1階にはリビング、2階には談話室があり、壁面には利用者が作った俳句や塗り絵の作品を掲示し、居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には箆笥などの使い慣れた家具や、写真や小物などの馴染みの物品が持ち込まれ、利用者が居心地よく生活できるよう支援されている。		